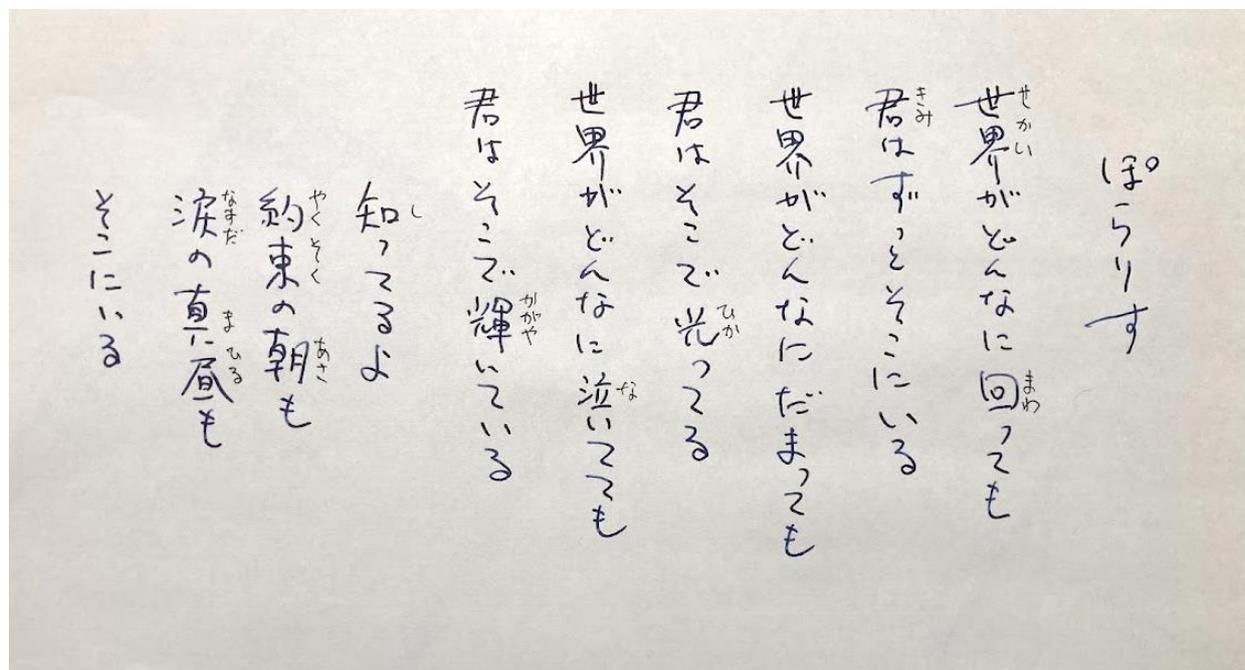



 なかま
 仲間と「読む」

2024/4/24

No. 8

岩渕和信



一人で読むのもいいけれど、みんなで「読む」ということを楽しむ国語の授業。大人も子どもも一緒に対話して、一人ではできない読みを深める時間です。森絵都の『帰り道』。

「周也はねえ、そうは思ってたんだけど、あまりにもじりじりしてて、いらついちやったからいやなこと言っちゃったんだよ」

「そうか」

「相手の態度が気に入らなくて言っちゃった」

「律が黙っててため息とかつくから」

「だからここでは、ちゃんと受け止められてない」

「受ノ心が足りないんだよ」

「そう、受ノ心、足りなすぎるよ」

「それはお互いに言える」



わたしたちは毎日、天空が自分たちのまわりを回るのを見ているが、じつは回っているのはこちらである。宇宙の動きは、宇宙と自分たちの関係から「生じている」。

(カルロ・ロヴェッリ)